

2025 年度 教育・研究年度計画書（学長プラン）

高野山大学

学長 松長潤慶

（2025 年 4 月 1 日作成）

I. はじめに

2025（令和 7）年度から新体制となった高野山大学では、これまでの方針を発展的に継承しつつ、教育研究の活性化と大学経営の安定化に全力をあげて取り組んでいく。

理事会においては、すでに学校法人高野山学園第 2 期中期計画が決定しており、高野山大学の中期計画の目的と目標、そして成果指標が定められている。

それに付随する具体的施策を勘案しつつ、以下の項目に注力することを、2025（令和 7）年度の学長プランとして掲げたい。

- ①遠隔授業の推進・安定化
- ②科学研究費申請率の増加を含む競争資金の獲得
- ③高野山大学 140 周年/大学昇格 100 周年記念事業の企画・準備
- ④連携事業の推進
- ⑤教育学科の在学生へのフォローアップ

II. 各種項目の概要

①遠隔授業の推進・安定化

遠隔授業を中心とする密教文化コースの成否は、今後の本学の経営状態を左右する重要な案件である。このことから、2025（令和 7）年度は遠隔事業の推進を積極的に進めていきたい。

密教文化コースの対象となる社会人は、仏教や密教には関心があっても、本格的な学習は未経験である。そのような社会人学生を確保するためにも、常に授業内容の刷新し続ける必要がある。また、担当する教員についても、遠隔授業と対面授業との性格・対象の違いを考慮に入れて配置することが望ましい。事務職員の配置についても、遠隔教育支援室の充実を視野に入れて実施したい。さらには ICT インフラの整備も早急に検討したい。こういった努力の結果として、社会人学生の増加、遠隔授業の拡充が達成されるものとする。

②科学研究費申請率の増加を含む競争資金の獲得

本学の専任教員には、個人研究費と規程範囲内での学会出張費が認められている。しかしながら、競争的資金の獲得を積極的に推進していくことは、単に教員個人の研究費の問題に留まるものではなく、本学の研究機関としての価値を高める事業として位置付けるべき内容である。

このことから、2025（令和 7）年度は競争的資金の獲得を目指し、近年申請をしていない教員・研究員に対し、業務として積極的に申請をするよう働きかけ、申請率増加に

取り組む体制を強化する。

③高野山大学 140 周年/大学昇格 100 周年記念事業の企画・準備

2026 年（令和 8 年）度に迎える高野山大学創立 140 周年、ならびに大学昇格 100 周年の記念事業として、記念シンポジウムの実施や伝授会の開催、またリンポチェを招聘しての灌頂儀礼、さらには記念論文集の出版等を行っていききたい。

そのために、2025（令和 7）年度は各種事業の準備に向けた委員会等を立ち上げ、本学の 140 周年を単なる記念式典の実施に留めることなく、密教研究の拠点としての高野山大学を広くアピールするための事業に結び付けるよう、準備を進めていく。

④連携事業の推進

東京大学先端科学技術研究センターと高野山真言宗総本山金剛峯寺、高野町と協定を締結し毎年開催している「高野山会議」を継続し、新たな高野山の魅力を発信する。

2025（令和 7）年度は大阪関西万博も開催されることから、東京大学先端研と連携し、展示物等の協力を推進し、地域社会・産業・行政との連携も行い社会的な課題の解決に寄与するとともに、産官学による新しい社会貢献領域の創造を目指したい。

また、大阪公立大学教育福祉領域との連携を進め、本学学生の福祉領域の学びの機会として展開する。

⑤教育学科の在学生へのフォローアップ

年度末の理事会で教育学科の募集停止が決定されたが、高野山キャンパスに合流することがすでに決まっていた 2028（令和 10）年度まで、教育学科の学生は在籍する。すでに十分以上の教育成果が出ているが、教育学科教員ならびに河内長野キャンパス事務室は、教育・指導・学生サービスにこれまで以上の細心の注意を払い、学生一人ひとりの満足度の向上に努めてほしい。なお、密教学科教員、ならびに各課においても、教育学科ならびに河内長野キャンパスの運営に協力的な姿勢で臨んでほしい。

（以上）